

# 日本語の「きる」(切) に対応する中国語の表現 — 「切」を中心に—

劉 麗

## 1. はじめに

外国人に対する日本語の語彙教育について、日本語教育学会編1982には次のような記述がある。

日本語を学習するときには、語の意味を母国語の単語と結び付けて記憶する傾向が自然に生じる。母国語の中で一応対応する語は、一時的な手がかりとして利用し、いずれは日本語の語彙の核心を会得して行くことが望ましい。

それには、指導者が日本語と学習者の母国語とを対照させて、相互の特徴を明確にとらえていくことが役に立つ。(p.290、西尾寅弥執筆)

特に中国語の場合は、日本語と同じく漢字を用いるので、中国語を母語とする日本語学習者は、日本語の漢字の意味を中国語の漢字の意味で覚える傾向が強い。

しかしながら、同じ漢字を用いても、中国語と日本語では同じ意味を表すものもあれば、違う意味を表すものもある。本稿では、「切」(qiē)を中心に、日本語の「きる」と比較しながらその意味分析を行う。

## 2. 辞書の記述

日本語の「きる」は、国立国語研究所編1964では2.157<sub>1</sub>「破壊・切断など」に分類されている。しかし、「きる」には、具体的な切断動作を表す用法と派生的な用法がある。例えば、『新明解国語辞典第三版』には次のような記述がある。

1. [つながって(続いて)いるものなどを] 刃物などを使って、部分に分けたり本体から離したりする。
2. 手やからだなどで、空気を切るような動作をする。
3. 物事に区切りをつける。
4. そこまで到達しない範囲にとどまる。割る。
5. きわだつような動作をする。

ここでは1.以外を派生的な用法と考える。

中国語の「切」についても、具体的な切断動作を表す用法と派生的な用法がある。例えば、愛知大学編『中日大辞典(増補版)』では次のように記述されている。

- A. ① 刃物で切る。切断する。
- B. ① 切る・密切する・ぴったりする。
- ② 身近である・親しい・親しみのある。
- ③ 切なる・しきりである。
- ④ 決して・どうか。
- ⑤ すべて。
- ⑥ 反切。

A. は具体的な切断動作を表す用法であり、B. は派生的な用法だと考える。

派生的な用法については、日本語の「きる」と中国語の「切」ではかなり異なるが、具体的な切断動作を表す場合、かなり近い意味を表すといえよう。それでも、「きる」と「切」が表す動作は同じわけではない。

国広1970は、日本語の破壊動詞の意味を分析するために必要な要素として、次の諸点を挙げている。

- A. 力の加えられかた
- B. 変形の形：一部の変形か、など
- C. 対象物の特徴：薄く平たいものか、立方体か、など；固いか、脆いか、柔かいか、tenacious か

(後略)

本論では、これを参考に、①道具、②動作の様態、③対象物の状態、④分離された対象物の状態、の四つの面から「切」の特徴をみていくことにする。

### 3. 分析

#### 3.1. 道具

森田1978は、日本語の切断動作を表す「きる」の意味を「固体を手ないしは刃物を用いて分離させる」(p.184) こととし、その手段、道具として「手、鋏、爪切り、ナイフ、メス、刀、包丁、剃刀の刃、なた、鋸、チェーンソー、ギロチン」などをあげている(同頁)。

それに対して、中国語の切断動詞は動詞によって用いられる道具が異なる。いくつかの切断動詞について、典型的に用いられる道具を簡単にまとめておく。

「切」(qiē) 包丁、ナイフなど。

「剪」(jiǎn) はさみ、爪切りなど。

「砍」(kǎn) 斧、太刀、なたなど。

「鋸」(jù) 鋸。

例を少しあげておく。〔( ) 内の日本語は、それぞれの中国語の文で表現しようとする内容を示す。〕

- (1) 用刀切肉。(包丁で肉をきる)
- (2) 用小刀切苹果。(ナイフでリングをきる)
- (3) 用指甲刀剪指甲。(爪切りで爪をきる)
- (4) 用剪刀剪布。(はさみで布をきる)
- (5) 用斧子砍樹。(斧で木をきる)
- (6) 用大刀砍柴。(太刀で薪をきる)
- (7) 用鋸子鋸樹。(鋸で木をきる)

また、日本語では「袋を手でやぶいてあける」動作、細長い物体を「引きちぎる」動作を「きる」ということがあるが、中国語ではそれぞれ「撕」(sī)「拉」(lā)を用いる。

- (8)×用手切開信封。(封をきる)
- (9) 用手撕開信封。
- (10)×象切断鎖逃了。(象が鎖をきって逃げた)
- (11) 象拉断鎖逃了。

このように、日本語の「きる」が表す動作を表すのに、中国語では様々な動詞を用いるわけであるが、「切」の第一の特徴は「包丁、ナイフ状の刃物」を用いた切断だということである。例えば、羊羹に糸を押しつけて切断することも可能であるが、その動作を「切」で表すことはできない。その場合は、「割」(gē)を用いる。

- (12) 用刀切洋羹。(包丁で洋羹をきる)
- (13)×用線切洋羹。(糸で洋羹をきる)
- (14) 用線割断洋羹。

ただ、重要なのは「包丁、ナイフ」という「道具」そのものではなく、むしろ「包丁、ナイフと同じ機能を果たす道具」だということである。例えば、まな板の上の羊羹に「鋸」を包丁のようにおしつけて切断することは(現実にはそういうことは稀だが)可能である。そのような場合、

- (15) 用鋸切羊羹。(鋸で羊羹をきる)

ということができる。その場合、鋸は包丁と同じ機能を果しているのであって、鋸本来の機能を果しているわけではないのである。

### 3.2. 動作の様態

道具には一定の使い方があり、その意味では道具が動作の様態を決めるといえる。しかし、同じく「包丁、ナイフ状の刃物で」切断しても、動作の様態によっては「切」が用いられないことがある。

(16)<sup>×</sup> 用小刀切紙。(ナイフで紙をきる)

(17) 用小刀裁紙。

(18) 用切紙刀切紙。(裁断機で紙をきる)

(16)の場合は、刃物と刃と対象物とが点的に接触した状態で刃物を動かして切断する動作である。この場合「切」は用いることができず、「裁」(cái)を用いる。一方、(18)の場合は、多くの枚数の紙を裁断機で「押し切る」動作であるが、この場合は、「切」が使える。

また、まな板の上に置かれた大根に、包丁を接触させてから力を入れて切断する場合は「切」が使える。

(19) 用刀切案板上的蘿卜。(包丁でまな板の上の大根を切る)

ところが、包丁を振り下ろしてまな板の上に置かれた大根を切断する場合、「切」は用いることができない。その場合は「砍」を用いる。

(20)<sup>×</sup> 揮刀切下案板上的蘿卜。(包丁を振り下ろして、まな板の上の大根をきる)

(21) 揮刀砍下案板上的蘿卜。

また、次の例をみよう。

(22)<sup>×</sup> 用刀切猪脚。(包丁で豚足をきる)

(23) 用刀砍猪脚。

(24)<sup>×</sup> 用刀切牛骨。(包丁で牛の骨をきる)

(25) 用刀砍牛骨。

「豚足」「牛の骨」はかなり固い物体であり、それを切断する動作は「対象物に刃物を勢いよく打ちつける」、すなわち「たたききる」という動作になる。ここでは「切」を用いることができないのである。

以上のことから、「切」は、刃物に特に勢いをつけることなく、対象を「押しきる」、つまり、刃物の刃を対象物に線的に接触させて力を加えて切断する動作を表すことがわかる。そして、対象物をこのように切断することができれば、特に切断の方向には関係がない。例えば、まな板の上におかれた羊羹を上から垂直にきろうと、横から水平にきろうと「切」で表すことができる。ただし、後者の場合は「打横切」という動作の状態を説明する修飾成分をつけるのが普通である。

### 3.3. 対象物の状態

「切」の場合の対象物は固定されていなければならない。

(26) 用刀切案板上的牛肉。(包丁でまな板の上の牛肉をきる)

(27)<sup>x</sup> 用刀切掛在那的牛肉。(包丁で吊された牛肉をきる)

これは、3.2.で見た「切」の特徴と関係すると考えられる。つまり、ぶら下げてある肉の塊に刃物を押しつけると、普通肉の方が動いてしまって、刃物の刃を対象物に線的に接触させて力を加えて切断する動作が成り立たないからである。「切」という動作は、刃物を押しつけたとき、対象物が動いてしまう状態であってはならないのである。ちなみに、ぶら下げてある肉の塊の一部を切りとる場合は、「割」を用いる。

(28) 用刀割掛在那的牛肉。

### 3.4. 分離された対象物の状態

日本語の「きる」は対象物を完全に分離させる動作、対象物に切れ目を入れる動作いずれにも用いられる。

「きる」はその部分を引き離すことに重点があり、そのため物体の場合は、鋭利な刃によって一続きの物を引き離し、引き裂くこと。完全の分離させても、部分的に引き離す行為、切れ目を入れる行為も「きる」である。(森田1977、p.493)

「切」も対象物を完全の分離させる動作、対象物に切れ目を入れる動作、いずれにも用いられるが、対象物の状態を明確にするため、「切NP 結果補語」の形をとり、結果補語によって対象物の状態を表すのが普通である。

(29) 不小心切了手指。(うっかりして小指をきった)

(29)は、単に小指を傷つけたか、小指を切り取ってしまったかは不明である。どちらかははっきりさせたい場合は結果補語を加えて区別する。

(30) 不小心把手指切掉了。(指をきりおとした)

(31) 不小心把手指切伤了。(指に切傷をつけた)

同じことは他の切断動詞「割」「撕」「拉」「砍」「剪」などにも当てはまる。

(32) 用線割断羊羹。(糸で羊羹をきり分けた)

(33) 用手撕开袋装糖放入红茶里。(袋入りの砂糖を手で切って、紅茶に入れる)

(34) 象拉断锁逃了。(象が鎖をひきちぎって逃げた)

(35) 肩膀被深深地砍伤了。(肩口を深くきられた)

(36) 指甲刀把手指剪伤了。(爪切りで指をきった)

#### 4. 結び

「切」の意味は次のようにまとめられる。

〈包丁、ナイフ状の刃物を、固定された対象物に押しつけて切断すること〉<sup><注1></sup>

なお、国広1970は、「きる」の意義素を次のようにまとめている。

〈対象物全体との関連は考えずに断面のみに注意し、鋭い断面ができるように連続性を断つ〉

したがって、日本語の「きる」は、「断面」のみに注意が向けられて、広く用いられるのに対して、中国語の「切」は道具、動作の様態、対象物の状態などに制限があることがわかる。今後は、中国語の「切」以外の切断動詞も視野にいれて、日本語の「きる」との更に深い比較検討を行いたい。

<注1>ここでいう「切断」は、3.4.で述べたように、必ずしも対象物を完全に分離させることを意味しない。

#### ／引用文献／

愛知大学中日大辞典編纂処編1986 『中日大辞典増訂版』大修館書店

国広哲弥1970 『意味の諸相』三省堂

国立国語研究所編1964 『分類語彙表』秀英出版

日本語教育学会編1982 『日本語教育辞典』大修館書店

森田良行1987 『基礎日本語1』角川書店

山田忠雄他編1981 『新明解国語辞典第三版』三省堂

森田良行1977 『基礎日本語1』角川書店

言語経歴：1954年 中国広州生れ

0～30歳 中国広州

30歳～ 東京都目黒区

(東京都立大学大学院学生)